

からしだね通信

8

夏雲に思う

戦争が廊下の奥に立ってゐた 渡辺白泉

厳しい残暑が続きます。

この季節、どうしても戦争のことを考えてしまいます。

今年2月、ロシア軍によるウクライナ侵攻で戦争が始まりました。

それからもう半年。これまでどれほどの犠牲者が出たことでしょうか。

人々の日常があっという間に奪い去られ、怒りと憎悪の応酬が続いています。

権力者の「大義」のもと、人々の命は武器としてドンドン消耗させられ、

「人間の尊厳」は徹底的に踏みにじられています。

それは今も。

77年前の夏、日本は戦争に負けました。

この戦争による日本人犠牲者は310万人とも言われますが、

その9割以上が戦争末期の「絶望的抗戦期」に集中しているそうです。(*)

もしあと一年早く戦争が終わっていたら、

東京大空襲も、

広島や長崎の原爆もなく、学徒出陣や特攻隊も、

沖縄戦も、シベリヤ抑留もなかったはず。

他国を侵略した加害者としての責任も含め、

後の世代へ残したとんでもない負の遺産たるや、

当時の日本の為政者たちの迷妄無策ぶりには言葉もありません。

あの戦争がどんなに愚かで罪深いものであったか、

さまざまな記録や証言によって、あらためて思い知らされます。

それでは、その苦い経験に、今の時代の私たちは学んでいるのでしょうか。

ナチスのユダヤ人虐殺の責任者であったアイヒマンは、

戦後裁判の証言でこう言いました。

「自分はただの歯車に過ぎなかった。他の人も同じようにしただろう。」

これについて、

ハンナ・アーレントという思想家（ナチの迫害を逃れてアメリカに亡命した）

はこんなふうに言っています。

「彼のただ一つの問題は、自分で考えるということが出来なかったことだ」

（『イエルサレムのアイヒマン』）。

アイヒマンは特別な人間だっただろうか、

とアーレントは私たちに問いかけます。

人が歯車になる。

戦争は、じつはその時に始まっているのかもしれない。

歯車になる。

それは、人間の尊厳を捨てることです。

人間をやめること、と言ってもよいでしょう。

戦争をしたい為政者には、都合の良いことかもしれません。

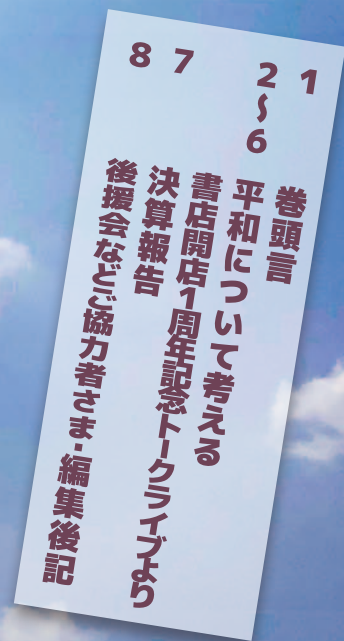
でも、戦争で犠牲になるのは、いつも民衆、ふつうの市民です。

勇ましいことを言う権力者、為政者ではなく。

青い空に静かに盛り上がっていく夏雲を見ながら、そんなことを考えました。

理事長 坂岡 隆司

(*) 吉田裕『日本軍兵士・アジア・太平洋戦争の現実』中公新書



私たちの身近な平和について

「PEACE MAKE—とある女性の平和へのたたかい」 トークライブより

からしだねワークスが、「CLCからしだね書店」として、ブックカフェをオープンしてから1年半が経ちました。インターネットの発達でSNSでの発信や、ネットショップでの本の購入など、とても便利な世の中になりました。それはそれでよいことだと思おう一方、書店というリアルな本が並んでいる場所に足を運び、じっくり中身を確かめながら、とっておきの「一冊」を購入するというのは、ネットにはない、とても豊かで楽しい時間だったとも思います。それはひとつの文化だと思うのですが、それが失われつつあるのは残念なことです。

3・11から平和をつくる
「2011年東日本大震災によるフクシマ原発《事件》で滋賀県に避難。布絵で失われたふるさとと原発を訴える…」 青田恵子さん

「平和は、じつとしていては守れない、常に壊されていくもの」

からしだねでは今後も、福祉の仕事をしている書店として、多様な人たちがやって来て語り合う「ブックカフェ」の可能性を探っていきたいと思っています。

さて、ミッションからしだねでは、5月4日(水)に「PEACE MAKE—とある女性の平和へのたたかい」というテーマで、書店開店1周年を記念したトークライブを開催しました。ロシアのウクライナ侵攻に心を痛めつつ、ウクライナで起きていることは、世界の反対側で起きている他人事ではなく、もっと私たちの身近なこととつながっているのではないかと、みんなが考え始めています。一人ひとりの命と尊厳が大切にされる社会があってこそその福祉ですが、そんな社会であるための大前提は「平和」です。トークライブで、お二人の女性が語られたことを、皆さんにもお届けし、あらためて私たちの身近な「平和」について考えたいと思います。



今、私たちが置かれている状況が本当に平和なのかどうかということに、ちょっと触れたお話をしてみたいと思います。

私は2011年3月の東日本大震災によって、福島県南相馬市から滋賀県に避難して11年になります。私の夫は、50年前から「福島第二原発設置許可取消処分」の訴訟をやっておりました。福島地裁、仙台高裁、最高裁までいきましたが、ずっと負け続けた裁判でした。ですから、原発事故が起きて、夫は一番悔しい思いをしていると思います。

私も原告団404名の中に入っただけなのですが、実は原子力と原子力災害について無知でした。ですから避難民の立場になることなど全く想像していません。生きていけない」という気持ちがありました。途中から「こうなったら避難民として生きよう」というふうに変えられました。帰れない場所は無理に帰っても健康を損ねるだけです。帰ったとしても、はたしてその選択が正しかったのかどうか、ずっと悩みながら生きなければならぬと思います。

「ふるさとがあっても、ふるさとはない」と言います。山も建物もそのまま壊れていまません。ただそこには放射能の汚染物が残っているわけです。いくら除染しても、放射能は毎日空から降ってきます。海にも汚染水は流れていきます。タンクにたまった汚染水を、海に流そうとする動きがあり、漁民たちは大反対しております。やっと漁ができるようになったところ、また汚染水を流すわけですから。被害者は、二度も三度も被害にあいます。今ある汚染水を流すのに、33年間かかる計算だそうです。でも、今後も汚染水はたまり続けますから、これは半永久的に続きます。これって平和なことなのでしょうか？私は、常にそこが引っかかりです。海は、東電のものでもなく、日本だけのものでもありません。汚染水を勝手に流してはいけません。

今の暮らしに不満はありません。満足して暮らしております。ですが、それが本当に平和なことなのか？と考えると、まったく逆です。年を追うごとに傷が癒えるかもしれないと、甘い見方をしていますが、違います。年を追うごとに疲れがひどくなっていくなか、気が持たなくなっています。

「平和の反対は、なんですか？」「日常の暮らしができなくなる」ことなんです。

考える

平和は、じつとしていては守れないものだとも感じます。常に壊されていきます。実に危ういものだと避難民になって痛切に感じています。

私のふるさは、福島県南相馬郡小高町というところです。太平洋と阿武隈山脈の間の浮舟城というお城がある相馬藩の城下町です。憲法草案を作った鈴木安蔵の生家があります。平和憲法は、2000万人以上とも言われるいのちの犠牲の上につくられたものです。つくられたというよりは、勝ち取ったというほうが正しいのかもしれませんが、今、平和憲法は、非常に危機的な状況におかれていると私は思っております。

「福島の原発事故、わすか40年の繁栄と引き替えに、失われていく故郷の平和」あの震災によって、福島では津波で1000人亡くなっています。南相馬市でも、600人以上の行方不明者と死者が出ております。私は沿岸部から6キロほど離れたところで暮らしていたために、津波は免れましたが、その日のうちに東電第一原子力発電所のパイプが破断しました。「想定外の津波のせいだ」ということになっていきますが、地震のせいです。地震が原因だと認めると、日本のあちこちに原発を設置する場所がなくなるからです。逃げ出したのは東電の社員とその家族が一番早かったです。そういうものなんです。一般の人には情報がなかなか入りません。白い防護服を来た人間が、田んぼの中で何か測っている。とても



話があります。2000頭の牛が殺処分されたと言われていますが、実際はそれ以上の数の牛が殺されました。放置された牛舎の中で何千頭も死んでいましたから。牛乳にセシウムが出てしまい、手塩にかけて牛を育てた酪農家たちは不幸のどん底に落ちました。自殺した酪農家もいます。牛乳を搾っては捨て、搾っては捨て、ということを一ヶ月くらい続けたらしいのです。乳牛は、乳を搾らないと病気になるって死んじゃうんだそうですね。だから、出荷しない誰も飲めない牛乳をただ搾って捨てるだけの作業を続けました。その方はその牛舎で、首を吊って亡くなりました。ほかにキャベツが出荷停止になって自殺した農家の方もおられます。酪農家や農家を死に追い込む、これは国家の殺人だと思います。平和ではありません。

「平和の反対はなんですか？」と聞かれたら「戦争」と答えるのが一般的です。でもある講演会では、「平和の反対は、日常の暮らしができなくなる」という答えが出されました。目から鱗が落ちるような、でもごく当たり前の答えです。今まで住んでいた場所から無理矢理引き離されて、今までの暮らしができなくなる。これが平和の反対なのです。私たちはちょうどその状況にあります。

放射能が引き起こした「いのちの差別」被害者がいるということは必ず加害者がいるということですが、加害者が誰も裁かれないのも、平和なことじゃないと思っております。家を失くし、町を失くした私たちの賠償や保障はどうするのか？自分で裁判を起こし、自分で闘って

文中の布絵は『詩・布絵・短歌「小さな窓辺」青田恵子』より

勝ち取るしかないのです。私は原発関連の四つの裁判に関わっております。国策として始まった原発のはずだったのに、私たちは自分で裁判をして勝ち取らないと、自分の身が守れないのです。そういうところまで追い込まれているのが、福島原発避難民です。

それから「差別」です。放射能ほど理不尽で不条理で不公平で差別的なものはありません。福島ナンバーの車は嫌われます。でもなにより大きな差別は「命の差別」です。年間に浴びる放射能の限度は、1ミリシーベルトと言われています。国際的な決まりとして、どの国でも1ミリシーベルトなのです。それが福島だけ20ミリシーベルトになっています。福島だけは、20年分の放射能を1年間で浴びてもよいということ。こないのちの差別を受けています。そこに子どもを帰して、学校に通わせ、子育てしてもよいと。これは決して平和なことではないです。

残念なことですが、原発事故によって、福島の人たちの中に、分断が起こりました。福島に住んでいる人と、福島から離れた人との間に起きた分断です。現在、福島に住んでいる人は、そんな危険な所に住んでいることを認めたくないと思います。国が安全だと言っているから大丈夫だと、残っている人たちのほとんどが言います。そして「福島を離れた人たちは自分勝手な人たちだ」と言います。ですが、私はもう福島に帰る場所はないと思っています。私は今、滋賀県に移り住みましたが、滋賀県民ではなく、避難民として生きようと、そういう気持ちになりました。

原発事故当時子どもだった6人の男女が、甲状腺がんにかかったとして国を訴えましたね。チエルノブイリでは4000人のがんが発症していると報告されていますが、なぜか福島は0人です。230人も甲状腺がんの手術をしているのに、統計ではゼロなんです。

長崎に生まれ育って…

私は長崎県出身です。長崎県出身といっても京都に来て50年近くになりますので、私の体のほとんどは京都市民かもしれません。長崎から京都に来た最初の夏、びっくりしました。長崎に原爆が投下された8月9日は、長崎では一番大切な日なのです。その8月9日11時2分、長崎ではいっせいにみんな黙とうするんです。走っている車も全部止まります。京都では誰も黙とうしないし車もぶつうに動かし、どうなってるんだろうと思えました。そして、ああ、長崎だけなんだと、びっくりしました。

私は昭和20年生まれです。同級生には、体内被爆とか、後で被爆した人とか、被爆したお母さんから生まれた子どもとか、そんな人がたくさんいました。7月になるとそういう子どもたちは健康診断に行かされます。学校の先生が「〇〇さんと△△さんは、明日お休みです」っておっしゃるんです。家で「〇〇さんと△△さんは休みなんだって」と母に言つと「ああ、健康診断だからだね」って。ごく当たり前にそういう会話がありました。原爆記念日には、母からも父からも、おばあちゃんからもおじいちゃんからも原爆の日の怖い出来事を聞きました。叔父も被爆者で、ありとあらゆる癌を発症して亡くなりました。だから今のウクライナで起きている戦争は本当に怖いなと思います。

重度の障がいを持つ子の、母となつて…

私は今日、北区鷹峯からバスと電車と乗り継いで来ました。46歳になる重度の知的障がいをもつ息子の母親です。46年前、私は未熟児で息子を産んだのですが、眼底検査を受ける時に新生児仮死になりました。後々、あの時の三分間で重度の知的障害になったと分かかって、愕然としました。でも幸いなことに「コミュニケーション



福島県知事でさえ、ゼロだと認めているんです。情けないことです。「福島では、子どもたちに検査をしているから、甲状腺がんが発覚するだけだ。たまたま調べたから出てきただけだ」というのです。しかも「甲状腺がんは軽い癌だ」っていうんですね。これから生きていく子どもたちに、「原発事故と甲状腺がんは因果関係はない」なんて言うのが今の日本の国であり、今の政府なんです。ひどいです。

「汚染水を海に流さないでください」という署名運動をしています。「あそこの家のご主人は、関電の社員だから、こんな署名は持つて行きにくい」と言う人がいます。「関電社員やその家族のためにもやってみて」と、声を大にして言うのですが、たった一行の署名でさえも、電力会社に忖度して、できないとおっしゃる方が結構います。

私は今、日本の平和が壊れる危機的な状況になっているということを知らせないといけないと思つています。憲法を遵守しなくてはならない立場の役所の人間が「実情に合わなくなったら憲法の方を変えてもいい」なんて言い出しています。冗談じゃないと思えます。

本当は危ないのに、「平和」「絶望」という、それが私の「絶望」
貧しいやせ細った人生に、闘う

私は福島から避難してまでも、人に嫌われたりしながら、それでも署名活動をしています。私にとつてはとても重い歳月です。原告団の404名の中の一人が、ひとつの詩を書いて、良いことを語ってくれました。「私たちの一生は限りがある。誰にとつてもこの10年

んとはとれるし、情緒は安定しています。本当に可愛い顔で笑ってくれる息子のことを、私は私の命だと思つて大切にしてきました。

15年前に夫が突然死をし、一緒に暮らしていたおばあさんも亡くなり、息子と2人だけの生活になりました。息子は残念なことに先天性の成長ホルモンの代謝障害があり、左右がアンバランスに発達し、頭の前から足の先まで奇形があります。目は弱視、耳は難聴、左右アンバランスに高さが違いますので、なかなか歩けません。たった1.5センチの左右の差で、どうして歩けないんだろうと思つたのですが、通園していた洛西愛育園の先生に、「お母さんが片足ハイヒール履いて、片足スニーカー履いて歩こうとしているのと同じなんですよ」と言われました。小学校に入る前、障害がある子が受ける適正診断の1週間前に愛育園から「お母さんちょっと来てください」って言われて、あわてて飛んで行ったら、息子が立っていました。嬉しかったですね。それからトコトコ何歩か歩いて来ました。嬉しくてすぐ夫に電話を入れました。「お父さん歩いたよ」って。夫も嬉しくて、会社の方みんなに言っただけで、その日は皆さんからおみやげをいっぱいもらって帰ってきました。

「こんな子を生んで」と

言われたことから、障がいの者の

親として歩く道を教えられた

四条通にある西院教会を会場にして「遊ぼう会」というサークルを立ち上げ、そこで遊ぶ練習をしています。「遊ぼう会」の日、息子の自分の意志で歩こうという気持ちを引き出すことが大事だと思つたので、車が好きで息子の手をひいて、ボランティアの学生さんと一緒に四条通を歩いていました。そうしたら、前から来る買い物帰りらしいおばあさんが、「ニヤッと笑っ

は長かった。慣れない金策に駆け回り、署名を集め、勉強会もする。この10年がなかったら、私たちの人生は、やせ細ったものになっただろう」

私は今この方の書いた詩を見て、今ある自分の姿に重なるんです。わたしは確かに今、安全な所に暮らし、おられます。でも、「ああ、安全になった。ここで、平和にのんびり人生を送ろう」などという気持ちには決してなれないんです。自分は安全な所に来たかもしれない。でも、甲状腺癌の子どもたちや、汚染水が流される海のことを知っているのに、何もなかったら、私の人生は貧しいやせ細った人生になるのでないかと思つています。

私の人生の終盤にまさかの放射能。私は、絶望を感じます。鈍感力が支配する「平和」という「絶望」。本当は危ないのに、「平和、平和」という、それが私の「絶望」なんです。

せっかく選挙権があるわけですから、その一票を大切に使いたいと思います。それは皆さんにもお願いしたいことです。

告訴へと一歩踏み出すことはとても勇気のいることでした。でも勇気を奮って、私たちを苦しめてるものは何なのか？こんな政治ではないけない、と訴え続けました。第二、第三の被害者を出さないために、原発の再稼働を食い止め、世界に誇れる平和憲法を一言一句変えることなく、次の世代に渡す。それが私の原発事故被害者として、一避難民としての、平和のための闘いです。

障がいのある子から平和をつくる

「障がいのある息子と歩んだ40数年間の道のり」 橋本久美子さん



て近づいていらつしやいました。そして「こんな子を産んで」って、すれ違いきげに言われたんです。生まれて初めてそんなことを言われ、びっくりして、反撃の言葉も出ませんでした。私は一緒に歩いていた学生さんに、「今の言葉聞いた？これ、きくと覚えていてね」と言いました。情けなくて悔しくて気持ちがなかなかおさまりませんでした。でも後々に、私はこのおばあさんに感謝しました。あのおばあさんのあの言葉があったから「負けへん」って思いました。それから「この子は私が守つてみせる」って思いましたね。障がいの者の親として歩く道を教えていただきました。あのおばあさんの言葉がなかったら、ふにやふにやした、ただのお母さんだったかもしれません。

人が大好きな息子にとつての、コロナ禍

それから何十年と経ちまして、息子は一人で作業所に通所できるくらいまで発達しました。夫が亡くなったことを知ったご近所の方や、毎朝同じバス停で会う人達が息子とハイタッチしたり、握手したり、おはようって言うって抱きしめてくれたりしました。

毎日それを続けていたのですが、コロナになりました。急に皆が手を出せなくなりました。「触っちゃいけないんだって」と、私は何度も息子に言い聞かせたのですが、息子はそれをうまく納得できないし、寂しかったんだと思うのです。帰りのバスで横に座った人に、そつと触つてしまいました。そして警察に通報されました。三度通報されて三度、始末書を書きました。最後のどめはパトカーが来ました。「お母さん、警察としては、息子さんとこんな状態でバス停でぐちゃぐちゃ

2021年度決算報告

事業活動計算書

(自 令和 3年 4月 1日 至 令和 4年 3月31日) (単位: 円) 1頁

勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
収益			
就労支援事業収益	41,015,725	26,405,181	14,610,544
障害福祉サービス等事業収益	74,767,625	75,864,111	△1,096,486
経常経費者附金収益	1,722,610	4,091,879	△2,369,269
その他の収益		580,000	△580,000
サービス活動収益計(1)	117,505,960	106,941,171	10,564,789
費用			
人件費	62,666,633	62,089,536	577,097
事業費	1,389,201	2,534,961	△1,145,760
事務費	6,928,977	9,976,681	△3,047,704
就労支援事業費用	41,112,917	27,294,719	13,818,198
地域貢献支出		621,906	△621,906
利用者負担軽減額	111,600	111,600	
減価償却費	3,412,008	4,401,365	△989,357
国庫補助金等特別積立金取崩額	△1,815,364	△2,051,296	235,932
サービス活動費用計(2)	113,805,972	104,979,472	8,826,500
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	3,699,988	1,961,699	1,738,289
収益			
借入金利息補助金収益	164,050	196,860	△32,810
受取利息配当金収益	424	431	△7
その他のサービス活動外収益	423,503	255,230	168,273
サービス活動外収益計(4)	587,977	452,521	135,456
費用			
支払利息	164,050	204,960	△40,910
サービス活動外費用計(5)	164,050	204,960	△40,910
サービス活動増減差額(6)=(4)-(5)	423,927	247,561	176,366
経常増減差額(7)=(3)+(6)	4,123,915	2,209,260	1,914,655
特別増減			
施設整備等補助金収益	626,190	1,727,450	△1,101,260
特別収益計(8)	626,190	1,727,450	△1,101,260
費用			
国庫補助金等特別積立金積立額	626,190	1,727,450	△1,101,260
特別費用計(9)	626,190	1,727,450	△1,101,260
特別増減差額(10)=(8)-(9)			
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	4,123,915	2,209,260	1,914,655
繰越			
前期繰越活動増減差額(12)	46,631,735	44,422,475	2,209,260
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	50,755,650	46,631,735	4,123,915
活動増減差額			
基本金取崩額(14)			
その他の積立金取崩額(15)			
その他の積立金積立額(16)			
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	50,755,650	46,631,735	4,123,915

資金収支計算書

(自 令和 3年 4月 1日 至 令和 4年 3月31日) (単位: 円) 1頁

勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
収入				
就労支援事業収入	39,116,000	41,015,725	△1,899,725	
障害福祉サービス等事業収入	74,139,000	74,767,625	△628,625	
借入金利息補助金収入	164,050	164,050		
経常経費者附金収入	1,500,000	1,722,610	△222,610	
受取利息配当金収入	270	424	△154	
その他の収入	139,000	423,503	△284,503	
事業活動収入計(1)	115,058,320	118,093,937	△3,035,617	
支出				
人件費	62,664,000	62,666,633	△2,633	
事業費支出	1,762,000	1,389,201	372,799	
事務費支出	6,291,000	6,928,977	△637,977	
就労支援事業支出	39,116,000	40,896,435	△1,780,435	
利用者負担軽減額	111,000	111,600	△600	
支払利息支出	164,050	164,050		
事業活動支出計(2)	110,108,050	112,156,896	△2,048,846	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	4,950,270	5,937,041	△886,771	
施設整備等補助金収入	626,190	626,190		
施設整備等収入計(4)	626,190	626,190		
設備資金借入金元金償還支出	1,930,000	1,930,000		
固定資産取得支出		140,250	△140,250	
施設整備等資金収支差額(5)=(4)-(5)				
その他の活動収入計(7)				
その他の活動支出計(8)				
その他の活動収支差額(9)=(7)-(8)				
子備費支出(10)				
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	3,646,460	4,492,981	△846,521	
前期末支払資金残高(12)	48,497,423	48,497,423		
当期末支払資金残高(11)+(12)	52,143,883	52,990,404	△846,521	

法人名	社会福祉法人 ミッションからしだね
施設名	社会福祉法人 ミッションからしだね
事業区分	社会福祉事業

貸借対照表

(自 令和 4年 3月31日現在) (単位: 円) 1頁

資産の部			負債の部		
勘定科目	当年度末	前年度末	勘定科目	当年度末	前年度末
流動資産	56,939,090	55,900,093	流動負債	5,878,686	8,844,670
現金預金	43,907,883	39,200,171	事業未払金	3,871,336	2,651,157
事業未収金	12,258,415	11,480,286	1年以内返済予定設備資金借入金	1,930,000	1,930,000
未収補助金	164,050		預り金	77,350	36,390
立替金		493,040	職員預り金		226,623
前払費用	608,742	726,596	仮受金	4,000,500	4,000,500
仮払金		4,000,000	固定負債	5,790,000	7,720,000
固定資産	97,752,663	101,454,961	設備資金借入金	5,790,000	7,720,000
基本財産	94,340,750	97,249,350	負債の部合計	11,668,686	16,564,670
土地	35,750,000	35,750,000	純資産の部		
建物	58,590,750	61,499,350	基本金	60,768,000	60,768,000
その他の固定資産	3,411,913	4,205,611	第一号基本金	60,768,000	60,768,000
車両運搬具	1,390,889	1,679,373	国庫補助金等特別積立金	31,499,417	32,902,649
器具及び備品	1,199,350	1,439,797	国庫補助金等特別積立金	31,499,417	32,902,649
ソフトウェア	601,674	866,441	次期繰越活動増減差額	50,755,650	46,631,735
差入保証金	220,000	220,000	(うち当期活動増減差額)	4,123,915	2,209,260
資産の部合計	154,691,753	157,355,054	純資産の部合計	143,023,067	140,302,384
			負債及び純資産の部合計	154,691,753	156,867,054

「この子を守るために、別れて暮らす道を選んだ」

どうしたらこの子を守るんだろうと一生懸命考えました。あるとき疲れ切ってしまつて「かずくん、もう、死のうか」って息子に言いました。それまでの和典なら「お母さんだけどうぞ」と言つてたのですが、その時は「僕も一緒に死ぬ」と言つたんです。「あかん。私はこの子を殺してしまつ」と思いました。

それから、なんとかして二人で自立して暮らす方法はないだろうかと、スマホで社会福祉の施設を検索しました。奈良の施設がヒットしたので、相談支援専門員にも相談して、面接に行きました。それから二泊三日のショートステイ、一週間のショートステイ、一か月のショートステイと、順番に続けていきました。最後の一か月のショートステイの時に非常事態宣言が出て帰れなくなり、結局、二か月間のショートステイになりました。どうなることかと思いましたが、ある日、電話がかかってきて「明日迎えに来てください」と言われたんです。そして、「12月1日に入所が決まりました」と言われたんです。



最後にありますが、障がいのある人達が、あたり前に暮らし生きていることを、是非、皆さんで支えていただけたら嬉しいのです。拙い個人的な話で申し訳ありませんでした。ありがとうございます。

「た」と言われました。心底「よかった」と思いました。その施設は、週末は自宅に帰れるのですが、お正月に連れて帰って以来、コロナで外泊外出禁止となり4か月息子に会えていません。今どうしているかなあ、どんな顔してるかなあ、いろいろ思います。職員さんに写真を送っていただき、私は今それを宝物のように毎日眺めているのですが、こうやって息子を守っていただけて、本当にありがたいと思います。

「コロナになって、人の心は閉ざされて、うちの子みたいにならなくていいな」と思いました。国は「共生の社会。生まれ育った場所で、当たり前のように暮らしていく選択がある」と、私たちに言うんです。でも、それがかなわなくなりました。だから私は、和典は奈良で、私は京都で、二人がそれぞれの場所で自立して生きて、会える日を楽しみにするという生活を選択しました。ですが、そういう選択もままならないままに、社会の中でがんばってがんばって生きていく子ども達がたくさんいます。そういう子が、手を振り振りしながら、へらへら笑いながら、そこらあたりを歩いていると思うんです。どうぞ、「がんばってるんだなあ」と思つてみてください。どうぞ、皆さんと同じ今日のこの時間を一生懸命生きていくことを、どうか認めてやってほしいのです。

皆さんと同じ今日のこの時間を、一生懸命に生きていることを、どうか認めて支えてください

「正しく怒る」《お二人のお話を聞いて…》

お二人の女性は、「いのちのために闘い続けてきた」という点で、同じ力強さとかつて下さる感じという声がか、会場からあがっていました。

世界が、どんな「平和」から遠ざかっています。環境破壊も進み、人災のような自然災害が増え、戦争が起り、戦争の気配が身近なところまで迫っています。人々は分断され、格差が広がり、弱い人が切り捨てられています。最近のことですが、安倍元首相が殺害されたことをきっかけにして、統一教会のことが明るみに出ました。政治的信念、政治的立場、宗教的な思想や教え、ポリシーなどを看板にして、都合の良いときにはその看板を盾にして相手を攻撃する人達が、いったん私利私欲が一致すれば、そんな盾はあっさり引つ込めて、お互いに褒めちぎり合つてとんとんつながっていきます。でも私たちは、橋本和典さんのように、隣にいる人の手をぎゅうと握るすにはいられない、そんな「いのち」のためのつながり方をする人達の輪を、どんなに広げていきたいと思ひます。

「今、世界で起きている悲惨な出来事を見るにつけ、自分ができることの限界を感じます。そんな無力な個人が、自分の置かれているところで、平和のために何ができると思ひますか？」という会場からの質問に対して、青田さんは「意外に思われるかもしれないが、やっぱり怒るといふことです」とおっしゃいました。「こんなことはおかしいんだぞ、こんなことは許されないんだぞ」と怒り続けること。「温厚でいつもニコニコ、何も怒つたりしない人が良い人だつていふふうに見えるけれども、私には怒りが私の中で逆です。人が困つてるときに、一緒に怒つてあげられる人。私ほそここそ、その人の人間性の真実を見るような気がするのです。あの震災以降、それがとてもよくわかりました。」とおっしゃいました。

誰かの苦しみや悲しみ、理不尽なことが無念、それらの原因をもたらしただけに方向が違って怒る。それはとてもエネルギーのいることです。でもその怒りを自分の中に持ち続け、同じように怒る人となつていくこと、それが「平和をつくる」足掛かりになるのかもしれない。



< 2021年12月～2022年8月発行日前 > ありがとうございます

【ご寄附者様】

浅野 純江様
 インマヌエル枚方キリスト教会様
 株式会社エナテクス様
 株式会社エナテクスサービス様
 京都信愛教会様
 坂岡 恵様
 坂本 正路様
 柴田 珠江様
 新谷 正明様
 田華 紘一様・美津子様
 土江 幸子様
 椿 栄様
 出村 紫野舞様
 中村 博子様
 鍋島 愛信様
 鍋島 久代様
 生川 鉄平様
 新山 和子様

スヴェール愛徳修道会 本部修道院様
 ノートルダム教育修道女会様
 野村 武夫様
 橋爪 範子様
 長谷川 和雄様
 花園大学様
 古市 洋様
 松田 和代様
 松盛 澄男様
 水川 武志様・登志子様
 森本 典子様
 山本 公平様・千鶴様
 山本 裕子様
 吉村 和記様
 脇 巖様
 C I F ジャパン様

【後援会ご協力者様】

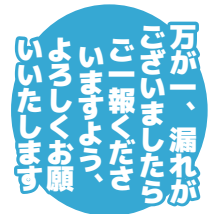
浅野 純江様
 入江 尚志様

井上 京子様
 岩井 虔様
 内山 映子様
 榎本 貴夫様
 大嶋 紗綾子様
 川瀬 勝也様
 窪 俊昭様
 小金丸 幹夫様
 小島 悦子様
 佐竹 紀美子様
 篠田 裕司様
 柴田 珠江様
 新谷 正明様
 杉浦 孝夫様
 砂川 晋治様
 田華 紘一様・美津子様
 小笹 輝子様

【CLCからしだね書店支援・ご協力者様】

赤澤 玲子様
 井上 京子様
 岩井 虔様
 内山 映子様
 岡田 日佐子様
 川瀬 勝也様
 河原 良治様
 濱名 正子様

(順不同)



後援会にご協力を…

「社会福祉法人ミッションからしだね」は、地域で暮らす障害者の福祉はもとより、社会の様々な課題に積極的に取り組んで行こうとしています。後援会はこの働きを支えることを目的としています。ぜひご協力ください。からしだねの機関誌の他、ブックカフェの情報、催し物のご案内などをお届けします。

後援会入会・継続には、同封の振込用紙をご利用ください。

寄付金控除領収書をご希望の方は、振込用紙の通信欄に「寄付用領収書希望」とお書きください。

年会費 個人様 1□ 3,000円 ※個人年会費が従来の3600円から変更になりました。
 団体様 1□ 10,000円

会費 郵便振替
 振込先 口座番号：00970-2-222380 加入者名：社会福祉法人ミッションからしだね後援会

※既にお振込み
 いただいている会員様は、
 お見逃しください※

ミッションからしだねについて

障害のある方々の社会参加の促進と、地域生活支援を目的として、「からしだね館」を運営しています。

相談支援を中心とする障害者のサポートをしています
からしだねセンター

①相談支援

日常生活での困りごとについての相談・福祉サービスに関する問い合わせをお聞きします。

②介護給付等の支給を支給決定を受けた方へ

●計画相談支援事業

障害のある方（児童含む）の「サービス等利用計画」を作成し、障害福祉サービス等の調整を行います。

●地域移行・地域定着支援事業

長期精神病院に入院しておられる方などが、スムーズに退院（退所）して地域での生活を継続できるようにサポートします。

就労による社会参加・社会貢献の場の提供と経済的自立の応援
からしだねワークス(就労継続支援A・B型事業)

《作業内容》

①カフェトライアングル

ブックカフェとしてリニューアルした地域のお店

②配食サービス・からしだね弁当

心を込めた美味しいお弁当のお届けと安否確認

③印刷・製本

デザイン・印刷・製本・発送まで一貫して請負います

④CLCからしだね書店

通常書店業務から古書販売までの細々した業務など

⑤環境調査(環境調査事務所)

騒音・振動の調査や証明書の発行業務など

⑥その他各種委託業務

清掃・メンテナンス・内職作業など幅広くあります

利用相談受付中です

(編集後記) 新型コロナウイルスによって生活が一変して、すでに2年8カ月が過ぎようとしています。「こんな生活にも慣れてきた」とはとても言えない毎日です。ミッションからしだねでは、まだ職員に感染者は出ていませんが、利用者さんにはぼちぼち感染者が出ています。濃厚接触者の定義やら、〇日間の自宅待期間やら、皆様もきっと不慣れななかで、いろいろご苦労されていることと思います。そんな渦中であってこそ見えてくる身近な「平和」について、お分かちできたらと思います。今回のからしだね通信を、お送りいたします。残暑厳しい毎日ですが、どうぞ皆様くれぐれもお自愛ください。(MS)

書店だよりは、毎月発行です。こちらで、お読みいただくことができます。→→→→→→→→→→→→→→→→

からしだね通信の次号は2022年12月の予定です

